

## 学校評価について（中間評価）

初秋の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。  
さて、7月におりました保護者アンケートにつきましては、868名という多数の保護者の皆様からのご回答をいただきました。学校に対する皆様の関心の高さを感じ、大変ありがたく思っております。同時期に児童、教員にも同様のアンケートを行い、学校評価に対する教員による自己評価と保護者の皆様の評価とを下表のようにまとめました。結果を十分に吟味し、これからの取り組みに生かしたいと考えております。今後とも学校教育に対するご理解とご協力をお願いしたいと思います。

児童アンケート	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	総計
	回答数	145人	160人	137人	155人	153人	196人	
	低学年305人			中高学年641人				

	低学年(1,2年)	中高学年(3~6年)
A	そう思う	あてはまる
B1	B まあまあ	ややあてはまる
B2		あまりあてはまらない
C	そう思わない	まったくあてはまらない

保護者アンケート	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	総計
	回答数	139人	153人	128人	146人	143人	159人	
	割合	92.1%	94.4%	87.1%	93.0%	92.9%	80.7%	88.5%

領域	学力の向上														
短期経営目標	基礎学力の定着と向上														
	低学年児童		中高学年児童		低学年児童		中高学年児童		保護者		教員		教員		
	さんずうのじゅぎょうで、じぶんのかんがえをかいいたり、はなしたりすることができた。		算数の授業で、自分の考えを書いたり、話したりすることができた。		さんずうのべんきょうをがんばってまえよりちからがついた。		算数の学習をがんばって前より力がついた。		学校は、基礎学力を定着させる努力をしている。		算数的活動を通して児童が自分の考えを持ち、基礎・基本を習得させることができた。		表現したいこと、伝えたいことがある算数の授業を実践することができた。		
A	203人	66.6%	253人	39.5%	242人	79.3%	372人	58.0%	535人	61.8%	4人	11.8%	4人	12.5%	
B	B1	94人	30.8%	279人	43.5%	57人	18.7%	212人	33.1%	297人	34.3%	27人	79.4%	20人	62.5%
	B2			97人	15.1%			49人	7.6%			33人	3.8%	3人	8.8%
C	8人	2.6%	12人	1.9%	6人	2.0%	8人	1.2%	1人	0.1%	0人	0.0%	0人	0.0%	
評価および今後の取り組み	基礎学力の定着について、児童や保護者の肯定的な評価(AおよびB1)が多かったことに励まされた。しかし、教員の側ではA評価<B1評価が現状であるので、教材作成や授業研究を通して、A評価>B1評価になるように研修を重ね、実践を積み上げていきたい。そのことで「自分の考えを書いたり、話したりすることができた」の項目の評価の向上にも繋がると考える。算数の授業で自分の考えを表現するについての児童の評価は、低・中高学年ともA評価は高くない。特に中高学年ではA評価<B1評価である。これは、教員の「授業実践」の項目のB2評価にも現れている。これは、学習指導要領の改訂に伴い、指導内容が以前と比べて、かなり多くなっており、知識・理解の定着に時間がとられる授業が増えていることも一つの原因である。そのため、今後は、内容理解も深め、考えを表出していく授業作りを目指していく必要がある。また、書くや発表するなど児童の表現の仕方にも工夫をしていきたい。そして、低学年ではB評価がA評価に、中高学年ではB1評価がA評価に向上していくように取り組んでいきたい。														

領域	豊かな人間性								の育成						
短期経営目標	明るいあいさつ								きれいな学校						
	低学年児童		中高学年児童		保護者		教員		低学年児童		中高学年児童		教員		
	あいさつがよくできるようがんばった。		あいさつがよくできるよう努力した。		子どもたちは、よくあいさつをしている。		児童に気持ちのいいあいさつの働きかけを実施した。		そうじのしかたどおりに、そうじとあとかたづけができた。		そうじの仕方どおりに、そうじと後片付けができた。		掃除指導と掃除後の確認を行った。		
A	245人	80.3%	410人	64.1%	279人	32.1%	28人	71.8%	251人	82.3%	357人	55.7%	24人	61.5%	
B	B1	51人	16.7%	166人	25.9%	425人	49.0%	11人	28.2%	50人	16.4%	238人	37.1%	15人	38.5%
	B2			51人	8.0%	149人	17.2%	0人	0.0%			40人	6.2%	0人	0.0%
C	9人	3.0%	13人	2.0%	15人	1.7%	0人	0.0%	4人	1.3%	6人	0.9%	0人	0.0%	
評価および今後の取り組み	児童・教職員の評価が高く、あいさつができ、良好な関係ができてきている。今後も日常的に教職員が、学級・学年を超えて積極的にあいさつの働きかけを行っていききたい。一方、保護者の「A」評価は3割程度にとどまっている。ここ何年来かは、さまざまな場面で家庭や地域でのあいさつや声かけをお願いしてきたが、引き続き、今後も家庭や地域でのあいさつを促していききたい。そのためにも、「ふれあいの日」の取り組みをしっかりと位置づけ、校外での取り組みの要としたい。								児童・教職員のいずれの評価も高く、上手に掃除を行っていると言える。今後も毎日の掃除指導と掃除後の反省を確実に行っていききたい。						

領域	健康・体力づくり								まちぐるみ教育の推進				
短期経営目標	運動の習慣化								かかわり合い				
	低学年児童		中高学年児童		保護者		教員		保護者		教員		
	ぼうるをとおくに投げたり、ねらって投げたりするちからがついた。		ボールを遠くに投げたり、ねらって投げたりする力がついた。		子どもは、自分から進んで運動したり外で遊んだりしている。		「きらきらタイム」と外体育の5分間には、投力向上を目指した運動を取り入れた。		学校は、学校便り、学年便り等のプリントや、Webページ、安心ネットなどで学校の情報の発信に努めている。		学年便りを毎月発行し、学校のWebページの学年のページを予定通り(2回)更新した。		
A	206人	67.5%	325人	50.8%	458人	52.8%	16人	48.5%	560人	64.6%	3学年	37.5%	
B	B1	70人	23.0%	218人	34.1%	296人	34.1%	14人	42.4%	284人	32.8%	4学年	50.0%
	B2			72人	11.3%	106人	12.2%	3人	9.1%	17人	2.0%	0学年	0.0%
C	29人	9.5%	25人	3.9%	7人	0.8%	0人	0.0%	6人	0.7%	1学年	12.5%	
評価および今後の取り組み	低学年児童90.5%、高学年児童84.9%と多くの児童が、「ボールを遠くに投げたり、ねらって投げたりする力がついた」と感じている。このことから、学年や学級での取り組みが児童の投力を向上させたり、有能感を感じさせたりするものになっていることがわかる。また、86.9%の児童が「進んで運動したり、外遊びしたりしている」という、保護者からの回答からも、児童が運動好きになっていることがわかる。そこで、これからは児童が楽しく、できる運動にしっかり取り組み、健康の保持増進と体力の向上につなげていきたい。								約97%の保護者から本校の取り組みについて肯定的な評価を得ている。今後も、職員の共通理解を深めWebページなども活用し、有用な情報を定期的に発信できるように取り組んでいきたい。				

無回答、または、回答できない項目もあるため合計人数は項目によって異なります。

人数の割合は、小数第2位以下を四捨五入して表しました。そのため合計が100%にならない場合があります。

たんぼぼ学級の保護者アンケートは、交流学級で集計しています。

学年の合計が、7以上になっている項目があるのは、特別支援学級や通級指導教室を、1学年としているためです。